



大下藤次郎《秋の雲》1904年 水彩・紙 当館蔵 前期展示

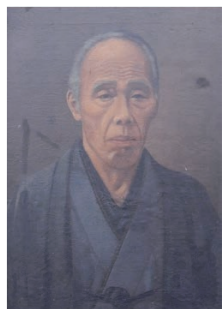
人語を話す三脚（写生用の椅子）が展覧会をナビゲート？



《大下藤次郎が愛用した水彩画道具類》
*右上にあるのが三脚
当館蔵

大下藤次郎は生涯でたくさんの著作を残していますが、そのなかでも異色なのが、美術雑誌『みつゑ』に連載していた「三脚物語」です。愛用の三脚（写生用の椅子）が「僕」の代名詞で、主人である大下とその周囲の人々について語る自伝的随筆です。本展は、この「三脚物語」にならって三脚が主人に代わってあれこれ語り、展覧会をナビゲートするという展覧会構成になっています。三脚が語る今までにない大下藤次郎展をお楽しみ下さい。

希少な油彩画初公開！
大下藤次郎が描いたと思われる
知られざる父の肖像画



伝大下藤次郎
《伝大下巳之吉肖像》
制作年不詳 油彩・カンヴァス
当館蔵

大下藤次郎は水彩画の専門画家として活動しましたが最初は主に油絵を描いていました。二人の師中丸精十郎と原田直次郎は、当時油彩の肖像画を描いていた洋画家です。しかし、現在残っている大下の作品のほとんどは水彩画で、油彩画の作例は唯一《野の道》（当館蔵）のみでした。今回、遺族のもとに伝わってきた、大下が父の大下巳之吉を描いたと思われる油彩の肖像画が初公開でお目見えします。



大下藤次郎《野の道》
1895年頃
油彩・カンヴァス
当館蔵

絵画ア、絵画 是吾が終局の目的 吾が生命 大下藤次郎『明治二十八年之記』より

企画展 生誕150年

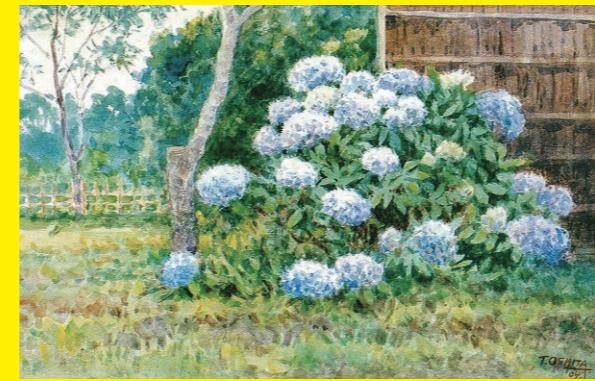
大下藤次郎と水絵の系譜



大下藤次郎

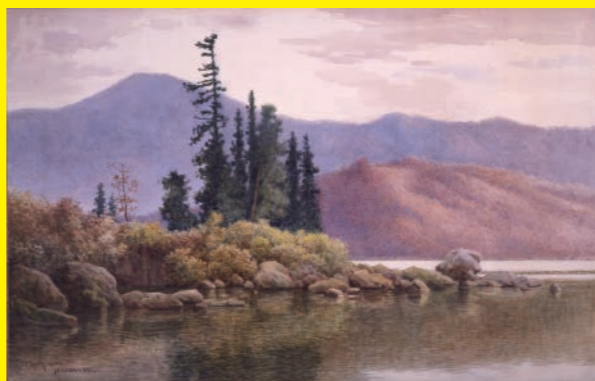
「水絵」とは水彩画のことです。顔料とアラビアゴムを主成分とし、水を溶剤とする水彩画の絵具は安価で扱いやすく、絵を描く上で、私たちの最も身近な画材となってきました。

この展覧会では、日本における水彩画の地位を確立し、明治期を代表する水彩画家として活躍した大下藤次郎（1870-1911）の生涯と画業を、生誕150年にあたる今年改めて振り返ります。今回は大下が長年愛用した三脚（外での写生の時に座った椅子の事）が展覧会をナビゲートします。水彩画の普及に人生を捧げた大下が、その著書や講習会などを通じて伝えようとした水彩画表現の魅力に迫るとともに、大下が自らの道を歩む過程で出会った人々、水彩画を愛する仲間達の作品も紹介します。明治期を代表する水彩画の名品の数々をお楽しみ下さい。



大下藤次郎《紫陽花》1904年 水彩・紙 千葉県立美術館蔵 後期展示

2020年12月25日(金) ▶
2021年2月20日(土)
前期：12月25日(金) ▶ 1月25日(月)
後期：1月27日(水) ▶ 2月20日(土)
休館日：火曜日、年末年始(12月28日～1月1日)



大下藤次郎《白根湖の秋》1907年
水彩・紙 当館蔵 後期展示

大下藤次郎を取り巻く人間模様
彼らが描く油彩画や水彩画の名
品が登場

大下藤次郎の二人の師、中丸精十郎と原田直次郎。そして、本格的に自然描写に取り組みと結成した写生同盟の若き時代の仲間、真野紀太郎と森脇英雄。互いに影響を与え合い、専門の水彩画家として活躍した三宅克己と丸山晩霞。さらに同時代の画家で交友のあった中川八郎、吉田博、石井柏亭などの作品を一堂に紹介します。季節の移ろいを感じ、懐かしさを覚える風景、ひたむきに生きる明治の人々の姿が水彩画ならではの瑞々しい色彩で描かれています。

吉田博《野中の老樹》1895年頃
水彩・紙 東京国立近代美術館蔵 後期展示



原田直次郎《素戔鳴尊八岐大蛇退治画稿》
1895年頃 油彩・カンヴァス
岡山県立美術館蔵

真野紀太郎《バラ》
1957年
星野画館蔵 後期展示



吉田ふじを《少女と網を持つ少年》
1902年 水彩・紙
府中市美術館蔵 前期展示



石井柏亭《病児》1904年 水彩・紙
千葉県立美術館蔵 後期展示



三宅克己《小諸城址》1900年 水彩・紙
千葉県立美術館蔵 後期展示



丸山晩霞《高原の秋草》1895-1898年 水彩・紙
丸山晩霞記念館蔵

大下藤次郎の「水彩画之葉」で
水彩画の描き方の極意を知る

明治30年代以降、全国的な水彩画ブームを巻き起こし、当時の画家達に大きな影響を与えた大下藤次郎の技法書『水彩画の葉』。本展では、実際の作例を交えて水彩画技法の特徴を探り、大下の作風や技法面の工夫などを紹介します。展覧会を見た後に水彩画が描きたくなくなるかもしれません。



大下藤次郎『水彩画之葉』
1901年 当館蔵

*水彩画は前期後期で展示替があります。
(掲載の前期後期は変更になる場合があります)

15th



島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
島根県立石見美術館
IWAMI ART MUSEUM

島根県立石見美術館

【主 催】島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、読売新聞社、美術館連絡協議会、日本海テレビ
【開館時間】9:30～18:00 (入館は17:30まで)
【観覧料】※()内は、20名以上の団体料金
[企画展] 一般1,000 (800) 円、大学生600 (450) 円、小中高生300 (250) 円
[企画・コレクション展セット] 一般1,150 (920) 円、大学生700 (530) 円、小中高生300 (250) 円
【問合せ】 ☎698-0022 島根県益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントウ」内 島根県立石見美術館
担当：左近充直美(専門学芸員) 吉岡恵(広報) TEL0856-31-1860/FAX0856-31-1884 <http://www.grandtoit.jp>